

平成29年度 やまびこ福祉会 事業報告(案)

1. はじめに

28年度は、27年度の職員、利用者減への対応から事業、現場の見直しを進め、通所現場の再編し、2事業指定、3現場体制での運営、グループホームでは女性ホームとして入居者、支援体制を変更してきました。

見直し後の今年度は、実践、経営、運動それぞれに、必要な体制をとりつつ、立て直しを進めてきた1年といえます。現場体制等、変動が大きい中でしたが、若いリーダーを中心に、仲間を受け止め、ねがいに応える努力を進めたことを評価したいと思います。

以下、1年間の活動についてまとめていきます。

2. 法人運営、本部関係

- 理事会、評議員会を定期開催し、法人の方向性など議論の充実と必要な課題の確認を進める。日程変更もあったが、理事会と評議員会の議事を整理し、開催してきました。また、下半期は、理事会事務局を事前に開催し、課題の整理、議案の検討を進め、理事会へ提案するができてきました。

平成29年度開催実績

5月28日	理事会	6月25日	評議員会
9月3日	理事会	12月10日	評議員会
11月26日	理事会	3月25日	評議員会
1月21日	理事会		
3月18日	理事会		

- 理事会、評議員会組織の確立

法改正に伴い、理事、評議員構成を見直し、前理事長が再任され、理事会体制を整えた。しかし、日程、業務との関係で監事の参加が難しいことが多く、課題です。

- 法人、事業のあり方の検討

改めて法人のめざす方向等について、理事会事務局にて検討を進め、理事会での検討を経て、3月「やまびこ福祉会組織再興マニフェスト ～パワーオブヴォイス～」として取りまとめた。30年度に入り、各報告、アンケート等に取り組んでいる。理事会として、法人全体の共通理解、目標となるよう議論を進めることが課題。

- 人事、採用、労務等

本部、理事長、リーダーを中心に、中日就職フェア、障害福祉の仕事フェア等、参加してきた。その他、紹介、派遣を通じて人材を確保してきた。

採用： 第3 奥村(男、非)、磯部、上月(女、派遣→非)、松澤(女、非)
第5 平松(男、常)、福島(女、看、非)、白井(女、看、常)～病休
永井(女、非)、杉村(女、非) 佐藤(女、看、派遣)
GH 佐藤(非、学生)

退職： 第5 五十嵐(常) 3月末転居のため
長田(常) 12月疾病のため(メンタル疾患)
第3 伊藤(非) 11月就職のため

他 第5 唐橋（常）4月育休復帰、藤原（非）5月育休復帰

関係者からのつながりで元職の再雇用、ホームページ等見て応募などもあった。退職では、長田職員について、無断欠勤などを通じ、依存症が明らかになり、本人から退職の一旦申し出があり受理したが、医療、福祉関係へつなぐ必要を確認し、専門医療機関、生活保護等まで付き添い対応した。

時間外等労務関係では、時間外平均は現場での努力もあり、29年度23.4時間（前年度31.4）と改善が図られた。しかし、業務の偏り、現場での判断になっている面もあり、より適切な業務分担、管理を検討する必要がある。

また、財政の状況、求人状況などから給与条件の改善を検討、給与表の見直し、ベースアップを行った。（30年4月より）

・研修、育成

研修計画に基づき、全体研修での基本的事項の学び、ケース検討、外部研修への常勤職員派遣を重点に取り組んだ。また9月より研修委員会を立ち上げ、集団的に推進する体制をとったことで、計画的な準備と新年度計画づくりを進めることができた。また委員の研修準備の中での気づきや学びもあった。

全体研修（竹沢氏：あいち障害者センターとアドバイザー契約を依頼）

5月27日 障害のある仲間をどうとらえるか 講師：竹沢清氏

7月22日 ケース検討① 助言：竹沢清氏

9月9日 防災研修 DVD視聴、被災地研修報告、防災計画

11月18日 ケース検討② 助言：竹沢清氏

1月20日 障害者権利条約と私たちの仕事（研修委）

3月17日 障害者虐待とは～仲間との関わりを考える（研修委）

外部派遣研修（常勤中心に派遣）

きょうされん被災地視察研修（6月）島田

きょうされん東海ブロック学習会：藤井氏講演（7月）松原、後藤、児玉、島田

きょうされん全国大会IN北海道（9月）島田、高田、岡本、（土屋）

きょうされん安居楽業ゼミナール「働く」（10月）平松

きょうされん東海ブロック一泊交流会（10月）松原、長田

きょうされん経営管理総合研修会（1月）松原、後藤、（土屋）

人間発達講座（2月）森、児玉

きょうされん安居楽業ゼミナール「生きる権利」（2月）中島

あいち障害者センターゼミナール（3月）松原、平松、島田、児玉

その他、全障研等、外部講座を案内周知し、参加の呼びかけを行った。

・行政対応

施設監査及び実地指導

第5 やまびこ、グループホーム明 12月15日 名古屋市より施設監査、実地指導がありました。軽微な書面の指摘事項のみでしたが、加算算定で専門職加算の有資格者の不足（産休による）が指摘され、過誤を行った。

・地域交流、連携

おさんぽフリマの開催 第8回 5月21日 第9回 11月12日 開催

11月のフリマは法人行事として位置づけ、仲間、職員も参加する形態をとった。

現場や仲間たちも交流に参加した。規模や内容も多彩となり、地域の皆さんからの期待も大きいものとなっている。

地域懇談会の開催（4月1日、八社コミセンにて、30名参加）

フリマの成功を踏まえて、イベントの場面だけではなくより恒常的なつながりづくりに向けた場として、やまびこの紹介、参加団体交流など行った。地域での交流、行事の継続を求める声が多く、今後も定例化する方向を確認した。(兼運営協議会)
その他、横井盆踊り大会、万場盆踊り大会、区民まつり等へ参加してきた。特に横井盆踊りは町内組織の状況が厳しい中、成功に貢献してきた。

- ・防災のとりくみ

- 10月 通所避難訓練(消火訓練後、八社小学校への避難行動)

- 2月 GH 避難訓練(消火訓練後、豊正中学校への避難行動)

- 9月 八社小 避難所設営、運営訓練へ職員参加(松原、後藤)

- 現場での消火訓練も併せて避難訓練を実施、また、避難所の設営、運営訓練にも参加し地域の方と共に学習、設営の実技を行った。地域の方との防災に係る貴重な機会。

- ・障害者運動などの参加、取り組み

- きょうされん第41次国会請願署名・募金運動

- 署名 2308筆(昨年度1831筆) 募金 55,444円(昨年度50,000円)

- いづれも昨年度を上回り、協力をいただいた。取り組みとしても4月19日街頭署名活動(38名参加)や国会議員事務所訪問等、仲間や家族と共に取り組むことができた。5月24日には国会請願行動へ代表4名派遣し、署名を直接手渡した。

- また、全国大会等への参加は研修としても位置付け、派遣することができた。今後も全国大会準備(2019.10あいち)等、職員の参加を検討していく。

- ・広報、情報発信、組織

- 課題であったホームページについて、秋から準備を始め、3月7日より全面リニューアルし、公開した。現場の最新情報の更新もできるようになり、直近の職員の応募でも「ホームページを見て」との理由もあり、成果も出ている。

- ボランティア組織

- 学生とのつながりづくりを課題としたが、担当、具体的な手立てが取れず、組織を凶られていない。同朋大とは、全障研やニュースインタビューなどで先生とのつながりは取ってきた。

- 介護福祉士実習、専門学校実習、中高生夏休みボラは積極的に受け入れを行ってきた。介護福祉士実習から少数だが、ボラに参加する学生も出ている。

3. 実践、事業

- ・原則に立ち返り、仲間のねがいや困難へ寄り添う姿勢でのていねいな対応を

- 生活の状況などを聞き取り、可能な範囲で各現場や本部で連携し、援助や対応を行いました。(送迎、通院、相談援助等)

- ・利用者の異動等

- 第3 高阪 8月 入院中、急逝により契約終了

- 第5 浅山 5月 ティンクルなごや入所により退所

- 第3 高柳 2月 地域からの相談、途中入所

- 第5 薬師寺 3月 第2やまびこより3班へ異動入所(活動上の課題から)

- 通所率は現場ごとの違いはあるが、短期入所利用での休みなどがあるものの、全体としては80%の水準で推移した。

- 通所部門 3 現場での新たな体制での実践の安定化をめざして活動を進めました。

- 第 5 やまびこ（利用：20 名）生活介護

旧第 1 メンバーを受け入れ、3 班編成とした第 5 やまびこは、体制の確立と各班の間の連携、協力も進めつつ、2 班での作業活動の再開、1、2 班の作業量の拡大、ボーナスの取り組み（外出）の実施等、活動の充実を図ることができました。しかし、作業量が向上した分、下請け仕事のため、仕事が途切れてしまうことも出ており、作業の検討は課題です。

新たな 3 班は、環境の整備などでスムーズに移行ができ、年度終わりには、個別対応となっていた第 2 やまびこから 1 名メンバーを受入、集団的な活動に参加できるよう職員体制も整えてきました。また、継続した求人活動で不安定だった看護師の複数配置を実現することができました。

- 小規模障害者活動センターやまびこ（第 3 やまびこ）（利用 7 名）生活介護
年度当初、7 名でスタートしましたが 8 月に入院中の仲間が急逝しました。まだ若く、明るく、仕事にもスポーツにも一生懸命の仲間でした。仲間、職員共に動揺も大きく、仕事にも影響が出ました。しかしその後、フリマでポッチャ体験の実施、やまびこニュースでみんなの思いをまとめるなどしてきました。

2 月には、新たに地域での相談ケースの男性 1 名の利用者を受け入れてきました。PC 班との認識が強い第 3 ですが、障害特性や年齢が上がる中で、身体的な負担が大きくなっている面もあります。仲間と共に新たな活動、仕事を検討しています。

- 小規模障害者活動センターやまびこ（第 2 やまびこ）（利用 7 名→6 名）

第 5 の編成上、常勤職員の異動減となり、現状の取り組みを継続、その中でも仲間と話し合い、自分たちの現場のことを決めていくなど、丁寧な取り組みを進めてきました。仲間ごとに高齢化に伴う機能の低下や継続した活動の中での熟練等あり、個々の状況とねがいに配慮した仕事への工夫も必要になっています。個別対応が継続していた仲間について、第 5 やまびこで新たに受入れ、集団的に取り組むことを全体として確認、本人、ご家族にも確認し、3 月より異動としました。

入所希望の受入について、特別支援学校と連携し可能な範囲で連携としていたが、名古屋特別支援校の進路担当の見学、懇談を行った。

仲間の給与規程の改訂を行い、可能な給与の引き上げを行う。

29 年度の作業実績から、経験給、クッキーの科目給の引き上げを行った。

（30 年度 3 月平均 1963 円 → 30 年度 4 月平均 2095 円）

- グループホーム明（入居者 2）

28 年度末に職員および男性利用者 2 の退職、移動により女性 2 名で再スタート、経験職員の支援体制をとってきた。本人の望む生活に寄り添い、丁寧な受止め、決定を支援することで、安心感を高めてきました。ご家族との連携、通所現場との連携も丁寧に進め、共通理解のもとでの取り組みを進めてきました。体制上、学生パートを確保してきたものの、支援体制の拡充は十分ではなく、新たな入居者を検討するまでには至っていない。

消防法に基づくスプリンクラー年度内整備については、市の補助を受け、12 月簡易型のスプリンクラーを設置し、整備を終了しました。

- 生活課題への対応など

関連する相談支援、事業所、他事業所との連携を進め、検討、支援へつなげる役割を担っていく。相談支援 計画相談の相談支援事業所の紹介、開拓。

本人、家族からの要望に対応し、基幹センターとの連携、相談支援事業所との連絡など随時担当職員中心に行った。計画相談支援の新規については、なかなか見つからないのが現状であるが、継続した相談で、1名は新規で計画相談がついた。

短期入所利用

29年度は、8事業所へ、年間延べ125名、312泊の利用があった。家庭での介護状況から、この状況は継続していくと思われる。頻度高いケースとそうでないケースの状況は大きい。

今後、モニタリングの機会等、生活状況をより把握し、必要な対応や支援へつなげる役割を果たしていくことが重要。

- 医療連携等 看護師複数の確保については、年間通じてみると1名の時期もあったが、複数の看護師体制を確保することができ、安定したケア体制が取れつつある。

感染症の対策 1月中旬よりインフルエンザが現場内で広がり、延べ仲間11名、職員7名の感染となった。感染による療養機関について、学校関係の規程に準じて徹底したが、家族からの感染等、感染防止しきれない課題を残した。